

歴博くらしの植物苑だより

くらしの植物苑観察会 13:30 から くらしの植物苑東屋

第107回 2月23日(土)『浜のくらしと植物』 江口誠一(千葉県立中央博物館)

第108回 3月22日(土)『古代のウメとサクラ』 仁藤敦史(本館研究部歴史研究系)

今週のみどころ <http://www.rekihaku.ac.jp>

今見られる花

サザンカ群、カンツバキ群、ハルサザンカ群、ヤブツバキ、シロバナヤブツバキ、有楽(ツバキ)、雲竜椿

フクジュソウ、スイセン、ロウバイ、ソシンロウバイ、ナバナ

今が見ごろ 冬芽

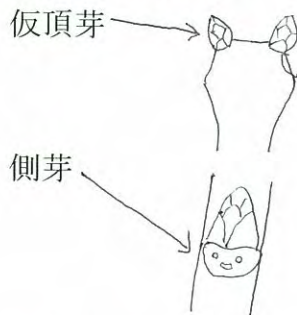
葉のない冬の樹木にはお楽しみがあります。ひとつは冬芽です。冬芽とは樹木が寒くて成長に適さない季節に葉、花などが次の成長にそなえて準備しているものです。熱帯地方では乾季に冬芽とよく似た休眠芽をつくるといわれています。冬芽の様子はその木の生活史を反映しているといわれています。

頂芽：伸びていく枝の先端につくられた芽で、側芽より大きく樹種の特徴がよくあらわれます。頂芽を持つものにはトネリコ属、ウコギ科、トチノキ科、ウリカエデ節、コナラ属、ハコヤナギ属などがあります。

側芽：枝の側方につくもので、葉腋につくので腋芽ともいいます。

植物苑でみられるいくつかをあげてみましょう。

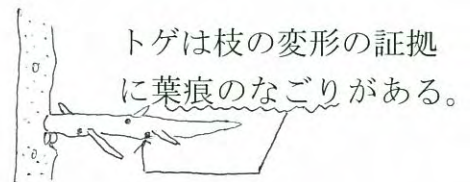
ロウバイ(ロウバイ科)



サイカチ(マメ科)



冬芽は縦に並び上の芽がトゲになります。



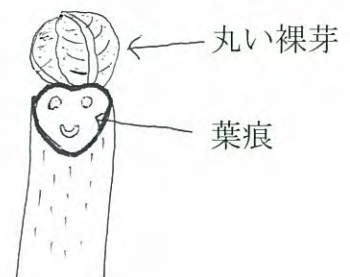
トゲは枝の変形の証拠に葉痕のなごりがある。

ネムノキ(マメ科)



葉痕の奥に冬芽がある。何かの顔にみえますか？

サンショウ(ミカン科)



ハラン (ユリ科)

常緑の多年草で、太い根茎が地中を横にはってのびます。節から葉柄をだし、葉はやや左右非対称です。葉は料理の添え物として利用されています。葉の質や斑模様の変化でたくさんの園芸品種があります。明治末には100品種余が紹介されています。写真はもう少しで開花するハランの花です。英語では Cast-Iron Plant, 中国語では蜘蛛抱蛋といいます。



テッポウユリ (ユリ科)

花形がかつてのらっぱ銃に似ていることからその名がつけられました。西南日本の奄美、沖縄諸島などに自生しています。ユリ属は現在までに96種が知られ、日本にはそのうち15種が数えられています、特に観賞価値の高いものが多く、世界的にユリの原産地として有名です。英語では White Trumpet Lily といいます。



“有楽”ツバキ (ツバキ科)

京ツバキ系で、青みのあるピンク色をし、極小輪一重咲の早咲きです。別名“太郎冠者”“楊紀茶”“土佐椿”といいます。うらくと読みます。侘助の中間でこの品種は茶人織田有楽斎が茶花として特に好んだことで、その名が付けられたといわれます。



侘助：侘助の仲間は茶花として特別の人気があります。

花の少ない冬に一重の小輪の花を咲かせます。ツバキとの違いは子房に絹毛がはえている。雄しべが退化して花粉がほとんど出来ない。種子がほとんど出来ない。花は早咲で、小輪で独特の花形をしている。

雪の日の植物苑

2月3日(日)はここ数年にない大雪が降りました。東屋もご覧のように白い屋根になってしまいました。

